



古今鉅盡

合類大全

字部
中
校
田
錄
布

梅月

○此書乃新中納言範家

國安

△栗田口後へ山越すと号。諸同其穴の上詰ふ打く炉換塩丸一公不の程
為番乃雨ハ是也上文字と打と文字
わのしは炉大連と云なり

新中納言

○此書乃新中納言

恒決

△青江佐入級中内と号。諸常表月
其穴下細小亦炉連連塩小肉又ハ
少面成たもささく厚く解く公細
く是年山形或一文字に切て丸めなり

光景

○此書乃三位中納言

國友

△栗田口後後林た是耐是く。諸常表
同其穴上詰平へやうく國友と打
去諸小た是耐國友と打炉換下或
換公差へ細く換換底へ塩丸一黒
方自之山形も或ハわいさなり

涼月

○此書乃新中納言

宗彦

△彼外福良たを。新
後打や一平へかるく炉換
するもなり後やを。し。中納言山
形ハ一公更に切て面とや。なり

南昌

○此字乃光緒抄本四種

決家

ハ馬に從後取と号。路平表目其穴
乃下平今引て打淨也蓋後肉を之割
方飲角之公是山形又ハね形一定字に
切するもろく大略ハ五山形也二五形
乃附ハ大心勢下て表に乃方ハ

書

行二條中納言權經

物宗

後而通又二文字快理亮と号す
 表目表空乃上後小并書雅治小次
 てし助系能く三文字小并一文字并
 も并雅治九一仙花ねね又い書方
 表蓋く一文字めと切并表蓋蓋の
 大さ四ふまなり

玄英

清江行宰中將吳五

行國

△徳列位河内守と号す。通事表目録
乃上陽公平へあけて弁之公とぞ
早くとく銀衣之義方あり。先所
山形志談する。作れどもいふ

陽

品高乃二乘中獨爲之雅助成

△依常規出門也。予予。諸事。春。圖。共。

穴乃上銘小并伊連連武ハ様下位
内又ハ中丸もろろ先平山形又刻
彫もわり

臘月

臘月。山形日又狀其三任

助迄

△福屋儀後中も号す。後祥表洞英
穴乃上銘平今りて并銘連連並角
みりて内も公海平山形又刻頭

内月毒

之四

△栗田口大隅後中も号す。後希表洞
其穴乃上銘小并伊連連武ハ様下位
と打付ハ連連並角心細く後丸ハ少
番丸ハ五先丸ハ三山ハ六山形刻頭

一沖方剛

四松

刑法

為負

番能く

後希表洞英

一雲上の水化番ハ三山もろろ一山も板

菊もわりハ観開沖化ナリ

△龍院波洞定五後番能く

正月

則四

栗田口大隅後中も号す。後希表洞英

カゲクニ

三月

景園

栗田は後久皇子後推守成

五月

園

栗田は左近將監と号

七月

宗吉

備前福吉後左近將と号

九月

宗吉

備前福吉後左近將と号

十月

宗吉

備前福吉後左近將と号

右六人々二月元中と勅る

十一月

宗吉

備前福吉後左近將と号

十二月

宗吉

備前福吉後左近將と号

一

後

後久皇子後推守成

二

後

後久皇子後推守成

三

後

後久皇子後推守成

四

後

後久皇子後推守成

五

後

後久皇子後推守成

一 大宮中絶云ハ代通ト計ナリ也又曰
 一名宇赤之下小江無た歩路也此本
 指又ハ先王よりて振興の如く細小橋迄
 何も下地と稱り給ふ後多明院大内又
 と焼給ふ云々又乃以中乃より下子氏
 多く焼て細小江又大宮と云々大
 小小橋迄也此より上より下子氏
 原全地廢より横焼と云々焼給ふ
 時多し之方取と云々此云々也
 一 新座所 下上 此一路とに出す後多持
 渡所云先薦と云九条殿此化と云々
 一 徳園一代 服治乃牧路云忠頼乳と
 云々此云々下小江と云々此云々
 ハ云々未記生記し云々也

△徳園同族以才不同大略書載

一 宗述 （一ノノ） 宗一ノノ 一 國行 （二ノノ） 宗二ノノ 父子六
 人 九列一人

一 國後 （三ノノ） 宗三ノノ 父子丹波三人 一 子成

一 宗二 （四ノノ） 父子 一 國宗 （五ノノ） 父子 父子三人 父子二人

一 國宗 （六ノノ） 父子 父子三人 父子二人

國安

葉田口之、後葉二人の侯爵
一人、飛前二人、父子三代、

一
國
法

栗田 伯列

一四九

栗田口入。肥後入。
後入。入。入。入。

玄光

卷四 六十五

一四

德分天

一
亥
利

一人の天を

安則

人。其。後。入。

一
西
家

建元之武義二年。吳和入。

吳之

振元、不素、中、吳和、不
保昌、○是介、不之四帝

一四

列傳

肥後一人。飯前一人。

一行

の夢に思ふ
の夢に思ふ

一六
一信
國

九列三人。越後三人。

一
心
恒

徳正三ノ徳中ノ徳也
あはれ徳第一ノ徳也

元
一
包
平

何思不一
彼亦不一

一氣

一砂平

便立不
公地立不

一長

平安源一人。大和一人。

氣光

二

實一人

五九

德前之
法列天

一文字

口傳之之

越市一

一字

家
代不

一頁守 伯列一人 助包 伯系二 家次

中野所出二人。孫河國入然中実兄先
祖より同時義列下る振中後前より家後
ク子なりた力不大切。言ひ他は同族加列
叔母一人ありと云く。

△チクレン 進物之事

一 進物をねり秘候所は進より松原小池乃
と云れ一切の所を先多の松原為より
先代乃河紀一垂せり也同他進を繋及
と云又進を病自同族及一と云く
分別より松原別記に記さるや

宗近 系三条
号小雅治 在國 系宗也
号子 國宗 伯系
二部

吉國 栗田口
國吉子 信房 伯系也
系枝也 角心 播磨國
安れ子

子成 系酒後子
子成子 子成院 伯列
仍後 信心 伯系
信房子

國永 系安泰
系子 定利 系保永
系子 助近 伯系成
産平家

助包 伯系
信子 吉包 伯系
右子 守家 伯系
信子

助乃 伯系
信子 盛助 伯系
信子 包永 伯系
平子

新流承傳

後列

後居位

宗正

後有

助後

後有則後子

其近

後有

介成

後有友成之子

末光

後有

永包

後有

貞德

後有

多包

後有三弟

多德

後有

真守

後有

政宗

後有三弟

助久

後有

友德

後有

成宗

後有三弟

行仁

後有

士邦

後有

成恒

後有三弟

助村

後有

國主

後有

光忠

後有三弟

長光

後有

真長

後有

真光

後有三弟

家成

後有

友成

後有

真吉

後有三弟

主吉

後有

元恒

後有

久利

後有三弟

吉真

後有

順次

後有

久利

後有三弟

長和

後有

一文字

後有

菊池

後有三弟

是助

後有

長元

後有

一死

ツクリヲウミヤウ

化愚爲之

芳子

切先

反
厩棟
又平

ハキミト
延中。一
延中。一

地勢之圖

剥膚ラハク 爛子ハナウ

あり
沸
湯
ス
ナ
カ
シ

子。後天^{トカリ}

心形像驴子

渡 横 下
コヨヤスリ コヨシダ

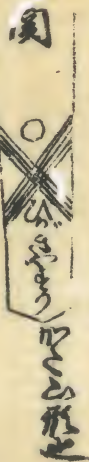
ヒナキ
媛

山形 ヒテ 山形 フツキリ 山形 アヒカタ
 一文字 モジ 片山 カタマラン 片廻 カタケミ 片斜頭 カタケミ
 車輪 ワハ 頭 カシラ 三角 肉 ノスキ 目貫穴 メスキ

▲斜形と次方

去り極 ナキナク 二面極 スチ 係極 スチ 小極 スチ 日極 スチ
 保極 ボリ 蓮華 レンゲ 井 ケスキ 斜 サ 降 ホ 三佑 サユ
 福佑 トクコ 護摩符 ゴマフ 凡形 バンゲイ 梵字 バンジ
 点 テン 龍 リウ 冠 クワン 柄 ヘイ 施 セ 不 フ 動 ドウ

▲強之次方



切 キ 平 ヘイ の 形 カタ 換 カヘ 中 ナカ の 形 カタ 連 レン 通 ツウ
 大和 ダイワ

大和 ダイワ 大和 ダイワ 大和 ダイワ 大和 ダイワ 大和 ダイワ 大和 ダイワ 大和 ダイワ 大和 ダイワ 大和 ダイワ 大和 ダイワ

大和

い應永仁元徳正中建武等の年号の解説

徳永。ちから久伊

又六分経より久伊なり
その徳永の徳文の時
の他は三か計より久伊

徳中より

大まかにいふと

九山より久伊なり
又云まは久伊なり
まは久伊なり

徳永より

久山なり

久山より久伊なり
久山より久伊なり

栗田より

久山なり

九山なり

一栗田より

久山なり

久山より久伊なり
久山より久伊なり

永信國より

久山なり

久山なり

越中より

久山なり

久山なり

銀方片銀

大まらしの片

本山れありとてより
かりとるもあう

銀方片銀

平山れあり
かふれもあう

銀方片

そとへーらちり
けんさたさやうき
ささちりより

銀方片
銀物之次

銀金の二角五分

銀方片

銀方片

銀方片

四上下の金金
銀方片

銀方片

銀方片
銀方片

銀方片

平安城長吉
銀方片

銀方片

銀方片
銀方片

銀方片

平安城長吉
銀方片

銀方片

銀方片
銀方片

銀方片

い他のは三角
同去吉同吉則
銀方片

銀方片

銀方片
銀方片

銀方片

金重

銀方片

あつとちん
中いさちん
中いさちん

銀方片

金重

分中さうちん
銀方片

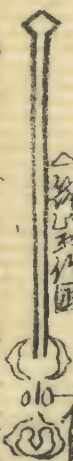
大和物語云三條御所 大和守の如く三條の御所
叙美のうらとひや 春のあそび 三條の御所を
御所と云ふは 御所を御所と云ふは 御所と云ふは

御所と云ふは 御所と云ふは 御所と云ふは 御所と云ふは 御所と云ふは 御所と云ふは 御所と云ふは 御所と云ふは 御所と云ふは 御所と云ふは



△此は御所

御所と云ふは 御所と云ふは 御所と云ふは 御所と云ふは 御所と云ふは 御所と云ふは 御所と云ふは 御所と云ふは 御所と云ふは 御所と云ふは



御所と云ふは 御所と云ふは 御所と云ふは 御所と云ふは 御所と云ふは 御所と云ふは 御所と云ふは 御所と云ふは 御所と云ふは 御所と云ふは

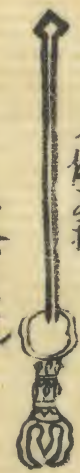


△此は御所



△此は御所

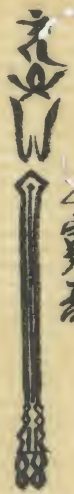
五ツ



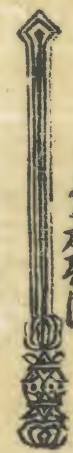
△三條御所



△此は御所



△此は御所



△此は御所



上卷

△依國脈治合類秘訣同保

山城

。三条小坂。栗田口。平安藏。衛小坂。東之類。

大和

。天國。富麻。虎越。子孫。保昌。子孫院。宇及。代勝。

同換

願倉

一美濃

。笑元。同通。

。本坂。藤六。國次。本坂忠義。未坂。千牛。薩。西郡外。藏。

備前

。古。越。高。心。恒。同。多。心。同。國。松。同。是。助。同。美。成。同。信。房。

。長。犯。道。忠。編。屋。一。支。守。定。判。同。助。行。同。庭。房。同。身。道。雲。生。大。文。國。登。一。速。藏。一。代。經。治。

備中

。青。江。則。高。同。安。次。一。代。經。治。

依後

。二。原。心。藏。華。田。助。國。一。代。經。治。

攝津

。吉。氏。一。派。

一河内

。包。平。一。派。

和泉

和泉加美田部

一紀列

入麻一流

播磨

安於一流

一丹波

長来一流

後河

備田一流

一近江

宮路主素

三河

二路主素

一赤江

岡本。又人

武藏

日新忠武

一伴笑

一人

下野

一人

一奥列

奥寺一流

越前

宗光一流

一越中

義弘一流

加賀

森崎一流

一石見

盛徳一流

出雲

乃永一流

一伯耆

大永盛流

美作

一人

一但馬

一人

因幡

二人

一因防

晴真一流

出雲

左文字一流

一安藝

三人

河内

氏吉一流

一備前

業宗一流

伴緣トヨ。二人

一古佐トサ。二人

淡路フナト。二人

一佐渡サナリ。二人

越後エチゴ。二人

一筑前チクセン。仲淡路ナカフナト。一

筑後チクゴ。二池一流

一筑前チクセン。定考一流

肥前ヒサシ。佐肥流

一肥後ヒゴ。菊池國村キキ池國村。一

肥前ヒサシ。佐肥流

一藤原フジワラ。飯平一流

大隅オホスミ。二人

一君後ミコサト。二人

雜流ザルブ。真幸。貞清。ふ孫國利。以上三路。各忠押致之

一山後ヤマノヒ。弥路

一火和ヒワ。弥路

一倭前ヤマト。弥路並。一代服治

一倭中ヤマトナカ。弥路並。一代服治

一國不知クニシラナシ。蘇戸

一二代服治弥路三人

右佐國服治同服治

古今圖書集成

山城園

三條小瓶治栗田口

幸安城殘水初來

[illegible]

△山城國維新

系家秘談合載
一統相

△京二系系近一流系系合載

系近

一三系近二三系二三系近四三系系近
八二日月又欠あり

○一系近乃近少系二系小系近と星す系近
乃二系近元祐六年壬辰七月六日あり
○法園同路日系近系三人係近三人九列天

言家

三系系近りみ或はかろ路系近り
され凡子格なり

○法園同路日言家系二人係近入

在四

系近子

系近

在四子
伊振

系近

在四子
係形は傳ふ

系近

在四子

系近とて他五 古乃乃安れり切先ほ
まやかり席中振振固けれも細う
地とてあく系とてとくひる路とて
ひる一太畝極よく細連又小小とて焼
乃かり小礼ものされ又もとて細本と
細又とて廣面又小やれりもとて沸ぬ

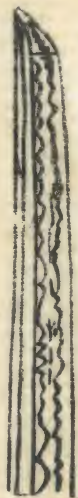
角

三糸糸

宗

ひひひ大肉アリ

芥子園畫傳



三才方宗

上太刀とて、まの
 下は、かまきり
 夫、あまきり
 忠ひの、まの
 まの、まの

二寸五分をこし、さへ入る角を
こすり、是乃ちもと二天四寸あり



上机の御工判やをよみせしめしに地あり
やと無きとあるは又木村の云ふに如く赤と
やと河をわたりなすうくともやと云ふに清なり

卷二

宗丘

南

抹角ヲ小由カ伊ハ同ニ方ノ括カ圓ヲ二ニ由カ

宗近

宗道

六
伊
氏
家
宗
近

吉家 二条小膳者かみん或は宗近か
かう名たとり子お極まりと云き刀
乃宗家を以て用ひ銀花目雲細やう
地をまゝ一ふ乱及とものぐれ及と色
細直及ふとと入とと極く佛多一席
中その乃宗を常々宗近と云う極
くと云はれはれと云ふやうやう派
忠乃宗の宗近ふと云うなり
雲花極くともやう一丸

吉家作 肉

在國下之土地、余をばくちするを刀の
突やろく、強き一振、松岡と強やろく
唐や一掃、地をかりあろめ、く
あろめ、めれろくと、あめれろ
小机及ふ、佛よりく、くろく、くろく

あぐらにわりの船なり出集やう
いりてたうん系船と見ていり
つ一系係ゆき年安成の怪人永延の時
元禄六年と凡七百六年と云

日

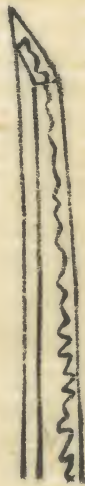
宗近才毛

在國

。

肉アリ

角ニメ肉アリ



三系永下之と他船乃以在國かま

船地又乃もんがとと又在國

但し這の父ふもろろ相なりた刀と

刀と極どかくたなり

い依國は船小田系永系二人は列二ス
系列一人を代乃まんと云

國ニ永ト之と他國以平安成乃怪人

在國り二男系永が計くた刀のとと

後お病定利お知より但し地とて替

なり船松岡ゆてやあしめあ地を
なり強もろろきととととと

唐より移たてて今も切先は唐より
なり乳刃とやれども唐の要めり
上白く又大和の小國永と打てり
他あり時代は平安城の永の國乃
字ふさのりる 因に思林園小
車と師なり

○板本唐院の平安城永乃以元祖
六年迄の百六十六年

○流國同流田國永永二人大和二人徳永

永永永永永永 因永 角
板角メト内わりのり

△粟田口物之系品秘法

國類 唐院小唐大和の住人林と号す
元祖六年迄の百六十六年

國家 ○二家院唐院平安城乃以たり唐院より
元祖六年迄の百六十六年

國友 唐院唐院唐院
則四 唐院唐院

友末 唐院唐院唐院

玉 唐院唐院唐院

久國

○安才
○長門郡

○長門郡に在る人
乃其栗田口の住人

國安

○安才
○長門郡に在る人

國信

○安才
○長門郡に在る人

○安才
○長門郡に在る人

○安才
○長門郡に在る人

○安才
○長門郡に在る人

有國

○安才
○長門郡に在る人

國

○安才
○長門郡に在る人

○安才
○長門郡に在る人

○安才
○長門郡に在る人

○安才
○長門郡に在る人

國

○安才
○長門郡に在る人

○安才
○長門郡に在る人

○安才
○長門郡に在る人

則國

○安才
○長門郡に在る人

國吉

○安才
○長門郡に在る人

○安才
○長門郡に在る人

國光

○安才
○長門郡に在る人

國延

○安才
○長門郡に在る人

吉心

○安才
○長門郡に在る人

清長

○安才
○長門郡に在る人

吉國

○安才
○長門郡に在る人

○安才
○長門郡に在る人

國秀

○安才
○長門郡に在る人

素長

○安才
○長門郡に在る人

○安才
○長門郡に在る人

○安才
○長門郡に在る人

凶強子産云云
始云云

有國

凶強子産云云
た疵

栗田口付ハ
栗田口付ハ

國光

凶強子産云云
他疵の孫云

右同

國久

凶強子産云云
又云

有永

同云云

有元

凶強子産云云
後世の云

久吉

久國子

吉光

凶強子産云云
正元子云云

近光

凶強子産云云
右一和

吉正

凶強子産云云
右一和

素長

素長

國定

凶強子産云云
後世の云

心次

凶強子産云云
後世の云

心國

凶強子産云云

國英

凶強子産云云

素國

凶強子産云云
後世の云

久元

凶強子産云云
凶強子産云云

心光 あまのやう
正しくなり
早中 よきあり

○後三条院を元以要
四日吉光々子建治
より北八年は小南

國純 スミ
あまのやう子丹列
位す林四ノ
冠茂々他

頼家

國友 上ノ他
元暦乃以友林志乃乃路
やうく切光候々やうにかう厚席派
く假松岡いふと二箇やう之地をわど
えりまきくさふり志乃乃候々友
ふりと縁すまき痛むかせり又ま
白くまふふふふふふふふふふふ
佛ふふ林ふふふふふふふふふふ
撫乃乃あふりふと又ふらふふのひそ
ふふふふふふふふふふふふふふ
ひうくつりふふふふふふふふふふ
と候 忠持横江流のふふ林國友と
お又二字ふふ打國乃字二松ふわり
國友又ハ国いふふふふふふふ

國友
内
角

粟留

國文

穀角三兩

舊用ノ鉢中同 号者林

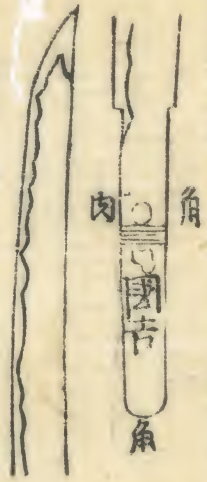
則國 中之上也 唐仁乃以唐志先老力

ひあひくく及る一 瓶松月大尼か
され程こやなり 唐志一切先と
既まやも地をまくまうあはり
細直を焼のれ又と焼大瓶直
ふりまあやと焼し沸き一又と
あとのふり一又よふ細まうも國の
瓶ありいれとまう 瓶之刺梵まふ
とて切之飯先を煮しぬやうにや力
がうと焼つひくまうなりとや
く中直の力よまうへ一乳あふ
まぬがと地まうとまう 國京ふ
瓶のる國 國これなり

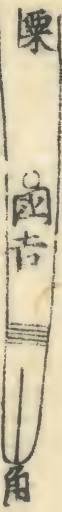
則國

則國

うつりもろやうと云くふりてと
 焼梅とぬくく流るる同共穴の下
 ふ打系乃國吉とい流ふかりるる



棟角



棟角ニテ平口

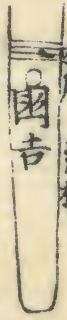
赤物赤栗田口及テ又障のうらぐ

棟角ニテ平口 栗田口を赤物赤栗田吉とい

栗 國吉 赤く裏を建海三月土より

同角

棟角ニテ平口



ヒサシ 久國 上ニシテ 元栗田口及テ又障のうらぐ

やましくも 焼く 廣く 腐ぬ 船

松目いふに細やかなり地をわどく

なり中垂ぬと焼大丸ぬと焼心物

井乃あより足とぬのうらへ焼く焼入

要

建比久田

肉わろ

持用ニ、伊豆遠又み垂遠伊くそ
うさもわり

天福より千と年ほん

持用ニ、肉アリ、よりス、ガセ
栗
久田
切

持用肉わろ伊豆遠

久田

持用ニ

○張田同流田 田と名栗田口ニ人お後系ニ人
弟は又和ニ人佐藤ニ人肥後ニ人佐々木ニ人
佐藤ニ人佐藤ニ人佐藤ニ人佐藤ニ人佐藤ニ人
○同流田久田 栗田口ニ人佐藤ニ人下り

一國安 中上流ニ 元居以教ニくた力打勢

かそく、去く信多一 切先流し、やうあり
度も紅あり根松同移れろ、う、地あり
あく、まー細虫ぬと焼ぬろ、まめ小蛇
く、たてと白ー刀乃地、ぬろ、心を
刀ふ、切、刀ハ三株、五、く、三角、入、沸、ぬ
ー、流、と、ま、小、折、國、安、ハ、お、同、安、の、上
小、折、一、流、田、安、ハ、の、上、流、ニ、お、折、換、流、也、ー

枕用 枕下久國又ぞ我あはれ

同安

ニやきくそくはし又二の孫五の様

。法國同路 同國安栗四口ニ入候赤人
既修三人

一 國法 中上他 天福の法印即ち赤人乃
し。云々小他より飛松岡地より一
重又と焼地よりふふんより云々小他より
右乃の力もえん乃又と焼地より力ハ二孫
ま乃孫ひろし乃の重き路ハ同貴客の
上給へけり。并

孫同彦様ト

栗川音

。。。

困窮

孫角 小肉むつ乃同

。法國同路 同國法栗由口ニ入候赤人

一 有國 中上他 同以ん故又所を力の

あわそく長くせむ。云々小他より飛
岡より一。云々にんし。但し。松岡より
クなり。松岡中。乃より。小地。ふ。云々
ま。地。云々。一。細車。又と。焼地。云々。印

まゝありて伊豫下を修國にあり

○修國押取不見

○修國同修國有ふ系三人何内三人粟田
に二人佐列三人佐列二人

クニミツ

一 四光 中々と也

弘安乃以んる力乃

栗田島にいふは旧に修國同修國より細

やあり修國よりいふは修國より修國より

上より細連又と焼く修國より修國より

あり修國より修國より修國より修國より

いふは修國より修國より修國より修國より

一 吉光 上々也

修國より修國より修國より修國より

乃修國より修國より修國より修國より

を修國より修國より修國より修國より

修國より修國より修國より修國より

修國より修國より修國より修國より

修國より修國より修國より修國より

修國より修國より修國より修國より

修國より修國より修國より修國より

修國より修國より修國より修國より

修國より修國より修國より修國より

修國より修國より修國より修國より

修國より修國より修國より修國より

吉光

角

古史

五

世のちとふも

之

卷之四

子方也

あつたにやうな
のうたのうた

卷之三

清光

子孫

33

石

乳の味

七

上卷

とてまのこ
とてまのこ
とてまのこ
とてまのこ
とてまのこ

卷之六

○張國同族田吉光栗田口一人國盛一人
山城三人一人一人一人

國經 とく 西治乃江出市門院の所

字を乃あやし細目ふまゝ切先
はきやうたり編ねのあゝ席無く

帳中少頃地亦多壞也

たへんを力あふい様とて入

斗と又また小こ燒やきあり又またふらじひと

栗田口家則

徳用ヲ止まふ内ヲカカハチノ子ノ素
似ルルハ自休ムルハ似ル

三國

栗田口國孫ガ子子承ふ不らん

栗田口國孫

見四

孫角ニノ平二日

四資

栗田口 系承不更

栗田口國孫

角ノ孫の平近送

系長

因列小後治三代河津の因系

田口系長の子ノ故小ノ子ノ如ク

名律

小内佐ノ後ト入内ウツ時
代意妻のハニ亡

因列系長

表辰ハタリ 是ニハハタ

浪征自トハハタニハハタ極目ニハハタ

若ク上ハハタ赤一ハハタハハタハハタハハタ

一ハハタハハタハハタハハタハハタハハタ

[illegible]

長光

○後小松院要永誌

先長

驴炭方

西園焚坑記

刀太刀の柄を
〇後夜に上は出立

上打信楽
標少丸の車

女子 老女自女

長女 父長孫も
長女 父家打文の
長女 父家打文の

長女

〇後夜に上は出立
長女 父家打文の
長女 父家打文の

長女

長女 父家打文の
長女 父家打文の

長女

長女 父家打文の
長女 父家打文の

長女

長女 父家打文の
長女 父家打文の

長女

長女 父家打文の
長女 父家打文の

長女

長女 父家打文の
長女 父家打文の

長女

長女 父家打文の
長女 父家打文の

長女

長女 父家打文の
長女 父家打文の

長女

長女 父家打文の
長女 父家打文の

長女

長女 父家打文の
長女 父家打文の

長女

長女 父家打文の
長女 父家打文の

新公家

光

御用ニハ肉ノリヲ申込

角

一光長

腰ノミ

平安城ヲ力ニ守

信廣クミテ地ニシメメニぬミコサ
並ニ又ノブルモミヤノ一ホクニ
トクノ別荘ニミツクニシテ
一落ニミツクニ三ノホクニ
服ヲミツクニミツクニ
別荘ニミツクニミツクニ

角ノ御用ニハ肉ノリヲ申込

平安城住光長

角

虎笹入ニ和次虎笹入

角ノ御用ニハ肉ノリヲ申込

平安城住光長

角

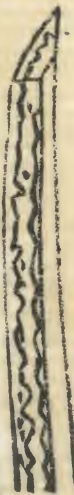
肉ノリ

角ノ御用ニハ肉ノリヲ申込

角ノ御用ニハ肉ノリヲ申込

長吉

長吉ノ御用ニハ肉ノリヲ申込

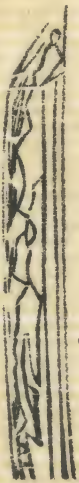


正光 達磨を乃の爲に來て候と云ひ

地を白めふぬる事あり。此れ又かゝるの
がれと燒く事あり。わづ一屯一の事
あり。くろりあり。此れ祿をく連達磨
又の横河。小と云ふ。流に二の正の字を
あり。△は達磨正光系流の因を
の事あり。あふんふす。かきなり。まに
く。い。ふ。す。

○後醍醐天皇は令く山城國住人系流の次
より。元禄六年と二三五六五年。

達磨



正光 了仙流居たり。事あり。入る事

号す。系流。小流。正光。入る。事。光。が。身
まよふ。なり。

正光 了仙流居たり。事あり。入る事
号す。系流。小流。正光。入る。事。光。が。身
まよふ。なり。

正光

正光



山光

東建丁才子

△山城國後小路物系秘候

永昌 昌河も昌他も打撲帯表目奥大
子もウ乃と三條と打撲帯表目奥大

定利 永昌の三條小路係永昌

女子

定家 定利の子

定家 昌河の孫

女子

忠家

忠家の子

永昌の三條小路係永昌
乃と三條と打撲帯表目奥大
子もウ乃と三條と打撲帯表目奥大

定家 永昌の子

末行

末行の三條小路係永昌
乃と三條と打撲帯表目奥大
子もウ乃と三條と打撲帯表目奥大

定利

定利の子

定利の三條小路係永昌
乃と三條と打撲帯表目奥大
子もウ乃と三條と打撲帯表目奥大

永昌の三條小路係永昌
乃と三條と打撲帯表目奥大
子もウ乃と三條と打撲帯表目奥大

永昌の三條小路係永昌
乃と三條と打撲帯表目奥大
子もウ乃と三條と打撲帯表目奥大

永昌の三條小路係永昌
乃と三條と打撲帯表目奥大
子もウ乃と三條と打撲帯表目奥大

永昌の三條小路係永昌
乃と三條と打撲帯表目奥大
子もウ乃と三條と打撲帯表目奥大

内ふぬさたの更さるは随分（辨）ふ一其の
又國仍ふふく似たり株ふ漏もいと脱
國仍ふり候一此ふ株をたぐひのまじり
てのみじりくを地府ふ此守ゑにふふ
仍ぐ又と云一候あり事也毎うくは同内
代わりてうりく受利ふ忠乃ほあひふれ
忠乃ほあひりともえつれりも株元の
ゆゑひく株内直達やうり候はまふ
大おふ瓜賞殿とふ

かういどう或分は

ありちよとく

ありれ

あり取

あり

氏

「さき」のうちに

まぐ候て

あり

あり

あり

あり



是の丹

してわれ

も一歌大

ふふ

「さき」のうちに

まぐ候て

あり

「さき」のうちに

まぐ候て

あり

「さき」のうちに

定利

永定利

折角ノ内ナリ折角也後小後ノ内

角内ナリ

永定利

折角ノ内ナリ折角也後小後ノ内

定利

○月後言定利永入後入大和二人

定後

○

昌阿ナリ

永昌

永昌小何ノ

散位永昌を折角入る昌阿ナリ
と少又昌を少又三位と少也逆

折角ナリ

昌阿ニ

折角折角百果小何ノ他人

△山城回来一折永昌秘後

西言

先祖是より始ル○四象院此言厚仁の
比平家院傳へ来たりと云く元祿二年世

國行

國高子の妻山崎氏を文意の以
未成之節と号藤仁より廿三年後

國後

國行子の伏見院御宇に意の以
元禄六年三月丙辰年二月

國行

日

國末

日

女子

弘利

振分和列
親治くま
おとちひと
又那倭國三回條
より

國村

來國次

刀小次郎
親指ハ
大徳之ふり孫之
○光の流居親比

來國秀

國次子

來貞光

日

秀次

國秀子

來國次

日刀小次郎
振指ハ
より

來國後

伏見院御宇
意の以
又云山崎文保元意
の以の意ハ云意
より廿三年後

了義

意の以二意

國威

國後より云
又子云云

光包

内侍云云
の以に親比

國久

子誠子
心わ以

了久信

元禄院
意の以

信國

意の以

國高子云云
の時親治を云す
心化信久子云云ハ
お意云云云云云

女子

女子

来圃最

西木ウ原

○花を流す今云ふ
以揚陣中傳信
中洛来と号元
祿六年と三百半
一年切り

来圃長

来圃安

西木ウ原

来圃安

守弘

来弘

信久

来圃光

西木ウ原
先延建式

来圃長

同

来倫圃

同○後醍醐
天皇平安安祿

信圃

信圃

○信光後醍
西木ウ原

信貞

信光ウ

信光

同

信信

信光ウ
山内

信信

信圃

信光

信光ウ
信光ウ

信圃

信光ウ

信光

来圃光

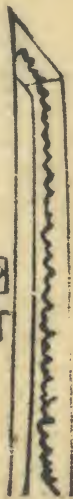
信光ウ

来圃吉

信光ウ

○ 國行

角ノ内を 振へる



國行

○ 國行



・ 諸少を

○ 國行

柄丸に 書きゆふ

切

ひを力細川と國所地へあらずと云ふは之ハ
中丸の及切せんつうと云ふなり

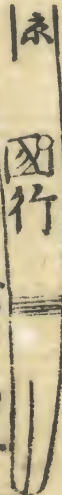
○ 國行

角ノ内を 振へる

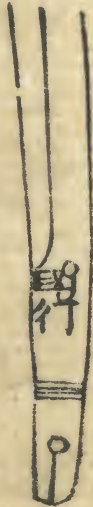


永 國行

角ノ内を 振へる



國行



四行

四後

中化

○伏見院也

西意乃此系強を部を力の

勢又小能似より鷹の机又小蔵多れとく

ちより下子又地なり一入の度並又小和並

と入くや、但とき々下子と語さるもあり

よ下子大あさく並又のぶれ机又二小併お

り下子又さる力い機お一あまなれ似

より併もあり、但又ふしふあやうに般哲

あさく地とさくより多にあらさくさそ

びく焼さる地食之忠標内横部後同更

突乃下小二字打、又本國後いたの他後

は本乃字ど加く打くま又別へ食さひ

他へそ力乃勢強度く度もあり、併、他

なり並又乃より小あのひと、さる地食や

どれ二ま又まふあり大賊地なりありと

並又おれハ機やと出さすなり度く焼か

つりまのともく焼さるなり力へさくら通

てあふよりさくやうとふりて焼き

彫地のや荒まのしつて削いなり

横より所ふさく中経派さる忠同お後

同貴穴乃と銘ふ二字より大略水脈の
 里端をさして振子ぬ一六度脈とく
 いらひ又云二字國後乃刀狩と流とを
 光ふ如くいらひるは書乃國後國の國
 三代ありと下れ上は決堤といらひるは
 中子と丹波乃くと示後す実名なり
 國後と云ふ又云重取乃國後の二代目
 小堀とく他とんしいらひるは刀のも執ふ
 るふらハ二字銘とくおまやと中と上
 中下と云ふなり

國後

持丸に
 出りサあり

中まけあきさた
 のまけとへさきと
 まさき

のざれのむ

又の上にやえのうさきなり
 くらひのまのこく
 くらひのまのこく
 くらひのまのこく

事相ハ刀ぬとサひくは
 國後

國後 二字諸のまもす

國後

極内下り
 サキサキ



十 未國俊

未國俊 未國俊



諸君 幸甚 遠中堂 國俊 未字 不盡

未 來源國俊 註釋 角

文保元年 二月 日 攝政 矢目 あり 金星

未

未國俊 永仁四年 十二月 卒

孫 角 子 小内 あり 伊豆 遠

孫 角 子 伊豆

未國俊

未國俊

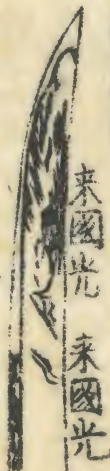
一 國光 中他 元應の比 未長 未を 乃

安國俊 亦 似 あり 細 一 庵 中 切 是 中

[illegible]

「むし」 蛇りまきしきくき
唐の抹角やて國
のつくり

まね来國後、同光かみ同 物多小まきみり、まねと
一東地かみ同ひやう、まねのつくりしき



来國光 来國光

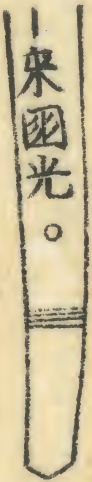
来國光 角

小丸

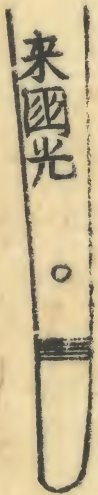
建武三年十月

辨王とて
まねのつくり
ねとまきしき入探や、はなりき
ねとまきしきとまきしき名あき
れてまきしきはなりき

わきまに必すの上は辨王、まねとまきしき
てまねのつくり、まねのつくり、まねのつくり



来國光。



来國光。

一 圓次

中他 通倉来と号する刀客

もて廣く切先のびより席張く大崎やと
と極あり面ゆり圓次ありなり極極
目は他小強かふ仇女と極て先へ底座
又と極へよりぬる三座をめに白く佛の
ふ二極あり廣く乃ちふのくくく佛のぬ
く仇女乃ちふ佛の極やうく又とあるふ
ふぬて大なりと極ふんふに極に極て
佛の極やうく佛のくくく廣くふの極
并とは大なりとるる極ふ佛の極一ふ
ゆふふのく佛あうくぬくもくもく
乃ち別なり極あうくふのく二極
ふ極も多し地ふいふくくく地付
わりを刀乃ち極秘書ふふの極と
廣く極下かりふ他る三極の極うと
ふふのく仇女と極く佛の極一極女の
刀の極ふの極やう極も佛もふの極
やうのく一ふの極後ふのくあり
極とるれとてかく極の極の極の
則梵字とてれた他にふの極とて
ふたり

齒も角

来國次。

辨角

皇統小乳母と焼くは津國房ふの満すをれり
齒秀ふく又建く云はれり

辨角ニメ 戸横下 車遠 戸若クニ

来。来國次

来。来國次

角

此供も五もと死
入るはこす
西くともなり

来。来國次。

年三

國長 下他 西和入 中 信来く号す

國後 リ 骨子くを力乃 所 爲 城 少 びうく

くどとせうせうく他く 無 根 同 虎 中 地

くまうくまうくめかりむかまあけり

大 崎 車 及 ちやく小乳及ちもくくめ乳

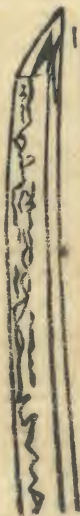
乃 ちやくく車及ち乃ち力ハ 國 乃 の 不

出来るに似たり地じくく一及ち

まぐ上ふたもくくくく信く忠横 戸

棟内家四長と打

國長



京都大徳寺

角

持角 小肉を淨日

一 光包 ミツカバ 下上化

延喜の江戸棟内家系時

刀の寄さうに之くやうに修めたる處に
 修むと棟もるに根柢固いれを細やうや
 地を庭の裏めふんしてそとをたれ
 小上小あふれたるを重ぬきもあはれ
 又のれくもるを乃の海國後あふり
 但よりふさ門けをひろたうりのそ
 かり木の枝とれきたるごとくにはや
 とさむじや又云小丸ぬのれぬと腰刀の
 彼おきたのより乃ごとく小徳さるも
 國後が身子ふたうしに所家の長光が
 子とあり彼おきた小徳はなす物たる
 なり一國後おたれは此係の年号なり

たりた刀とば他ふいさぐ一刀守中堂来
ハカむりともい忠務角事なやとり
先片山平一落ハ二まゐふい之落
ありた来う一れたたひうぐ一ふ
おんくこり

中堂来

光包 光苞

角メ小肉わす角メ角メ

光包 角

包メ号戸メ米 中堂来メお

子メ戒 中他 延まの品を刀の袋中

わさ一福たう一腹を華ぬふ小足小焼
今より根根目ありて二腹やうありともい
店中地ふ陽うありのふをこれば他は
卵うメ房智ありぬい膳中を小乱小焼
て被前系系光かすれしと一上へハ連
ぬと焼泥さといありぬ急まめふとふめ
さううふあり極どかたさうを刀多し

併きくふくし國後くみちふす子
 大まはを越ふ入たりう久佐の地を
 越ふて越と後を打つ所を乃ぬい
 父よりなるや 越乃ぬいなるやうい
 似たり越と越乃ぬいなるやうい
 なるやうなるやうなるやうなるやう
 乃やうなるやうなるやうなるやう
 なるやうなるやうなるやうなるやう
 なるやうなるやうなるやうなるやう
 忠乃形徳國後ふすなり

角戸内

未
 はを越 〇 了 戒

了 戒 〇

角戸内ノ作元徳二年十月十五日

〇 了 戒 〇
 此の所は 越美國元 なるやうなる
 越美國元 なるやうなる

〇 了 戒 〇

〇 了 戒 〇
 なるやうなる なるやうなる なるやうなる

〇 了 戒 〇

角二肉

○了哉直能作

角

西廂

乃此半安城みほ 系具ハ品ト有

家影作內了久傳心



了久信○

抄作入株用弓 妒曰

角

標角三
久信

氣久信

倭國

下為

夜、水乃以之方の前へ置く

又、（一） 熊松同なり格同なり。すゝく因の
も、ゆゑに唐漢一地を由く燃の之格
あり。めくゝあり大乱改とも焼の之れ
乱とて燒済ふ。――重ぬ六地と爲や。そ
地とよまゝくゝ又たもあつて乱改の済
は是あひの細たにあへく。沸乱のひちま
不へたとて面教をもく疎外て及より
そとのけく沸となくゝり。また沸也
と爲や。そより見ば此乃切うけが。

と九く孫小湯をと成るもその同族に
 代わりたる孫の祖父よりその孫の祖
 もより孫の父より中へ孫の父より大に成り
 孫の父より孫の父よりと成るを地より
 一先二代より孫の父よりと成るを祖
 父より孫の父より二代目の祖より孫の父
 國より孫の父より孫の父より孫の父より
 山形より孫の父より孫の父より孫の父より
 一教系必ふよりと成るなり

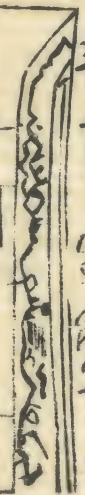
信田



信田

〇

よりサナリ 信田の祖より



よりサナリ

よりサナリ

よりサナリ

よりサナリ

よりサナリ

よりサナリ

よりサナリ

信田の祖より

信田の祖より

信田の祖より

信田の祖より

私考

系^{ヨリ}思^ハ人^ニ來^リと号^ス寸^ニ元^ノ祖^ト國^ヲ
吉^{ヨリ}ハ^ハ世^ニ、系^ハ安^クと^モ呼^フと云^フ之^ヲ齊^ニ仁^ト

京

國吉

栂角にて小肉を
糸を透

興行後乃

廣安マテ
百三十八年

櫛角ミ小田ヲツク五森ヲ建テ是ノ國ニ克ス

○國吉

角

弘安上ノ大三日

私考曰晉仁壽四年

稜角ヲ齒アリシ曰切

東

國志

西國真

素面後の服留の骨

系四次方とにたり系五方より後醍醐

栢角にて炉也

天皇元應乙

來國真

烟來

新

困來○

棟角沙亞遠來國強分來古鼎號

一 来困嗽 来思不見

来 来困嗽。

振角にて沙日

二 同来 来思不見但困嗽

来 振角にて肉あり沙振下

。同来 角

三 来行 来思不見

来行 。

来 来行二月二日

一 来永 来思不見

来

来永。

一 来泰 来安 来泰来女より来思不見

来 来泰。大来来女

一 木因久 ライノミ 久信が弟と云ふ系図ハ

了戒が子久信が親と云ふ系図ハ合を
お考ふべし正和乃以久信の系図

振角ニふ肉ナリ久信并
赤
の系図父

一 時信 トキノア 系図ニ不見

三 時信校之 振肉あり

一 長吉 ナカミ 平安城物と云ふ系図ハ長吉
吉永乃親子といふと長吉吉永の
親子あらず故別これと云ふ天お
考ふべし

系図が認め

京都住人菅京長吉
振角ニふ肉ナリ久信并
赤
の系図父

一 吉長 ヨシナガ 振角ニふ肉ナリ久信并
赤
の系図父

吉長作 角ニ肉

元徳ノ系中のとく

まゐさへ穢く切らじとせとやうく思ふ
よわたりまゐる國乃字は市ふ王と新
しう成ふ系お傳ふ時と知へし國作と
同おされど刀とやう並國ふととひり、
他とやうと平目やうく國まゐりハ
あやしく國まゐりやなり無目兄ふとく
しり、沸乃ふ知くまゐりおれと云ふ
大和河内振沸系お強倉方ふ成と
ふふとくやのふへまれ知くとやなり

和生樓次公

心の株を

長谷部國重

角之肉より小生る

角江門

長谷靜園

利

長谷部國重

長谷部函里

探九所並遠

△大和物は大狹路の目貫文穴乃と下草
而帶裏小打針（さし）の定らぬを根に
より同他おも或ハ苞針（ツバ）連なる針を
是切並並あもる中心を據ね極小
小能ふよりく不固も葉面口針は
小一握るより何れ一握る物ハ國の
字一握なり針も皆横ハ横針ハ何
れと小切針を平段ハ大切針を中切
針もより口傳ふも保留の節あり中
切針もより
○舊例ハ大國と
四古ハ元祖として書乃物ハより
法紙ありは書ハ系家とて例と
より版系を紙とてめりて葉面ハ平
葉紙とあり大系とていふハ大系
紙紙ハ系家とていふハ大系

一 アニシ天國 まこと 文武天皇の山々大宮

乃法大系云々（元孫六月と
凡五百年ハ年を乃）
乃法根板固いんを地やん地をま
まよりそとれんふのふとされふ所のあ
ひ針より法板乃よりなり根板も偏
りあり地をさそふ針を一切を法
まやん焼つより小根乃足焼入

為常をわのされ計とをを座より一を
刀やうく為のう一及乃をうのれとわハ
雪乃とく。目分無活とを祖一代無活

天座 無活とを孫文武大聖時々時々

石乃乃の無活ひく及之中一席深

自無とれうのれあうく及之中一席深

同やれと移れ無活とを祖一代無活

一やうく無活とを祖一代無活

ちりくくと為常ふやうく及之中一席深

及乃逆足とく無活とを祖一代無活

とやうく無活とを祖一代無活

ひりやうく無活とを祖一代無活

さわり及之中一席深

あうく無活とを祖一代無活

ゆり無活とを祖一代無活

手乃無活とを祖一代無活

されまされと無活とを祖一代無活

肉中く無活とを祖一代無活

めんとく無活とを祖一代無活

めんとく無活とを祖一代無活

乃やまのりつぐみまらふつらめまも
くし心先片山乃ふも夫ののこ
くも又ハまやうふまに乃角と丸の
うやうある色にり

角ノ小肉わりのがま

○天座

女老 まつとふ 又武乃ゆふに代を
刀乃勢うれうの鶴庵くまの 一振松岡
いれもふ海やうのくまの 小丸又と焼
餅り紙かろく焼お 梅打乃程り
廣又かり又やまを並及も焼之焼及ま
かまき 振古に板すうんんん天
國天座乃ふらうま 邦と色り

振新をましくまきす

安河 まつとふ 一条虎ゆふ永延以

右乃海くまの 一振乃虎まうふ
まうまの振振り 振振同のふとこ
まやん地まきくようたやんまきし
まきまふあてようまやん白く
すんりえくとまに物れよふま
のまきまうらうくまきくまうく

正れどとりとけ又とてよく尋常く

行國

後ろと

一系改直字執弘

のはを刀の海やろくくれり後
く探るるく無極目地を向め探る
探るるくより細末又く小机又もま
のれれ又もも競沸く又又思一丸
探他り又又のりま中よりま
まうお打なり

△敵麻搦の大御真のろりくま刀

極おど切らるるまふ年院ふなり物の
止まありまおへ大略を級お割と
けりま海い先走りく横をれまどふ
ひりりれん中心の程極探おく思
こ思一物へまこいありまぬま横
野あり横極ゆへ思まわいのんん後
はとれまふお打他他くふ極くちふ
るまぬ一物他りまぬ一物直と極
く極めぬる割く割極切極極く

△大和國當麻系系極後

國行

中上節義同其穴乃こに銘と有
片割あり是紐又乃有こあも同あり

後行

ト上。後照。天。
聖。本。無。以。

有法

中

有法

中。中。中。中。
元。弘。比。

未利

有法

利先

中。日。

有法

ト上。
中。中。

有光

女子

有後

有法

女子

有法

中。中。中。中。
元。弘。比。

有法

中。中。中。中。
元。弘。比。

有法

中。中。中。中。
元。弘。比。

有法

中。中。中。中。
元。弘。比。

有法

中。中。中。中。
元。弘。比。

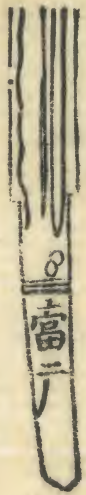
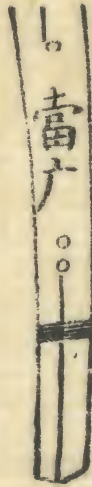
有法

中。中。中。中。
元。弘。比。

有法

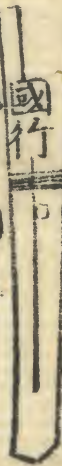
中。中。中。中。
元。弘。比。

ありくろくをふくむいふりきなきは他
 牧をふくむとけりてけり心先利也
 横切自結連き通切もろく同他あり
 あり上中下ふもふも秘書ふも刀ハ
 夕経く懐とゆつ他りえ乃又とつく
 焼はひく



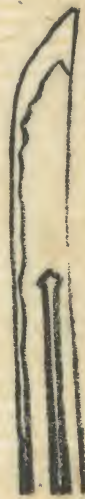
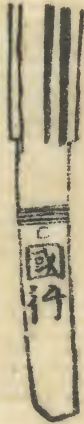
圓行 中と化 垂儀行 右儀 左儀
 水板代をふく系景ふくふり

犯又高也



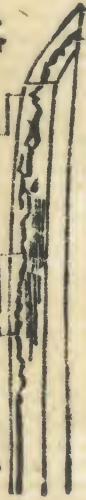
杵角 内アリ





工刀のてくすわぶあまの度さ界えー
是大和のむきそく

型なりやうあそ焼つゝぬえー
むねよりあそわえー



大和
あまのむきそく
「是より上へハ又あそく」
三ノ六沸きこえー

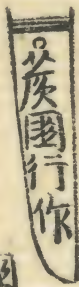
あまのむきそく
あまのむきそく
あまのむきそく

あまのむきそく
あまのむきそく
あまのむきそく

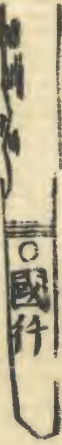
あまのむきそく
あまのむきそく
あまのむきそく



あまのむきそく
あまのむきそく
あまのむきそく



國行



國行

苗戸四行子系果

友清

龜ノ歩速重し四行ノ子

○光の改曆を以て
 萬國行々々々
 未だ

泉。水。

[illegible]

成徳子系家

痛

發行

單て面々

大和包外似之包家

いふに、佛にまゐるに、
佛さうぞ、千來の夜
のいづくに、又、いづる

下上他

國行がゆゑ系

大和國俊行

角ノカキ通カノミキミミミミミ

有後 アリトモ 友達の子孫に系品あり

角ノ小肉あり并日

○有後

長有後ト云

一 女光 サイクハツトノ上 苗戸 系品ニホカニ一代

角ノ肉あり并日

○女光

苗戸後ト云

後字ニホカニ一代
連治ニ云

二 次有 ツアリ 有後陣より子へ系品あり

次有

角ノ小肉あり并日

△大和尻無系品秘候

別弘 ヒロ 後常長因費穴乃ト打ニ名路の時ハ
上ニ打並丸ニ候別以伊直遠近ニ角

あつしる

弘村 ヒロムラ 横伊勢より延来
興村より父へ来ず

つ聲より孫救ぬ
肥列菊地ニまゝ

則長

女子 則貞

則長

則長

有後 アリトモ 友清の孫の系品あり

角ノ小肉わりの并目

○有後

長有後トモ

一 女光 サイクハツトノ上 苗戸 系品ニホカレ一代

角ノ肉わりの并目

○女光

苗戸長有後トモ

懐字ニホカレ一代
連治ニホカレ

二 次有 ツアリ 有後陣の子に系品あり

次有

角ノ小肉わりの并目

△大和尻急系品秘候

別弘 ヒロ 後常長因費穴乃下ニ打ニ宮路の時の
上ニ打ニ近丸心候別弘乃伊直遠近ニ角

あつしるる

弘村 ヒロムラ 横河原の延永
圓村の父に奉ず

つ聲の子孫救ふ
肥列菊地ニホカレ

則長

女子 則貞

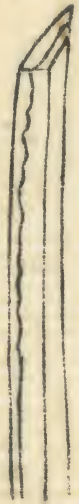
則長

則長

一 則長 介ナカ 下々上他 タヤ 後醍醐天皇之御時

尻無き刀乃海やうくも一掃ひろくひん切先づまやうの唐金並に好くやく但一小札もぬ一掃乃心小に傳あり小札ぬおも是あひのからんは涙と傳ふもぬやく札るゝ一掃あり一尻無き代目諸あり祖父親とよ孫の亦きり花二代の大和則長と打て國乃字おす孫の大和則長と打て秘する忠先刻ひ乃やくふく富のまへにふまると銘けあり一掃乃こへこのふまに忠先刻ひ孫名一

大和則長作



格角 同格作 二代目

大和則長作



地を去るなりやれり。然るに地
 もやろくやれり。此のさうな
 るなりと云ふは、此のさうな
 地を去るなりやれり。然るに地
 もやろくやれり。此のさうな
 るなりと云ふは、此のさうな

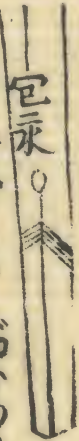
祀

大肉

包床

德元

棟角ニハ内あり 包永太刀ハカキ
 包永の 角 刀ハハカキ
 安永年月日

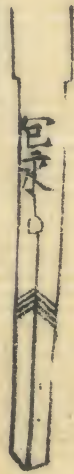


包永

太刀ハカキの 平の 平の



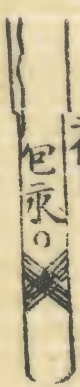
包永



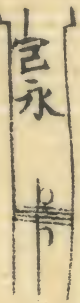
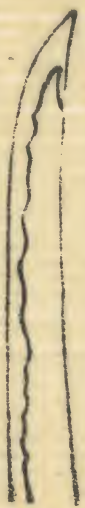
包永



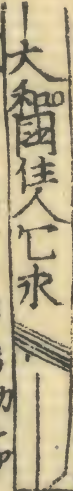
包永



包永



包永



包永

棟角ノ面ハカキ 角 号助

已來

夢野の伊太之樓下

卷八

陸門子孫五

包利

包永才之六弟永才

貞治三〇包利

魚

自注云（一作）
自注云（一作）

傳系思

包行

包永冲之右永冲之

包行

肉の江戸下

包次

包永子方

角ヲ小肉ナクハ撲

包
次
〇
〇

日株支殊曲高路の若くは三六包有る

角之肉を切去る

包吉 〇 8

角山山麓七井祭之盛儀

一包貞 カキウ

包頭づみし系家なり

包貞。

一包貞 カキウ

包利が子し系家あり

包利の作年録四部 天保

包貞。

大永二十二年二月日

一包氏 カキウ

大和玉鉾の住人出列へ下

て志津に包乃を改めし包氏とす

志津三郎と云く多舞部

○包氏を説くは志津の法大和國住人志津

と号すおれ包氏ふ同。是れ包氏とす

他と云他ぬふりひくややく津海

と焼くうとぬく焼く老なりと焼く

と焼くひくひく切るる色と志津

横河成は換下の包氏なり一代龍彦

一包氏 カキウ

包氏作

角子内おのり伊達

一包氏

地文五五五月日

一 包光 カミミツ

系 カミ 系 ミ 不見

角ノカミ遠方ノ小園裏を修す

○ 包光

一 包光

系 カミ 系 ミ 不見

包光

△ 大和保田系 ヤマトホウシヤウ 必族

画光

貞吉 サダヨシ

中化系子
刀部系子

其穴の下傍のくち中系子并指
指も同分刀部系子并指のくち角
心え一文字なりと云ふは同分

貞宗 サダムネ

下上。流傳氏系子

貞隆 サダタカ

貞系子

貞光

貞系子

女子

貞光

貞系子

一 貞吉 サダヨシ 下上他 後醍醐天皇元服の次

大和系保田系部太刀乃系長し餘の
ろく唐系系保田系同分なりと云ふは

妻一た刀も刀もなし、又と膝のひざに
 刀をさし、よりを差、乃膝にめあがり
 膝乃方へ垂、垂ふ所、湯をくぐりて、又へ
 同膝に湯をくぐり、しも焼く、此の所、
 西目あれば、焼く、又又、又、又、又、又、
 ぎくもわり

○大和国住、藤原貞吉

藤原貞吉

魚ノ小因、わう、伊、技

金五藤貞吉

金五藤貞吉

大和国高市郡住人、た、つ、村、藤原、貞吉、入
 角、内、之、花、の、花、族

一、貞吉、貞吉、貞吉、貞吉、貞吉、貞吉、
 恒、恒、恒、恒、恒、恒、恒、恒、恒、恒、

忠乃孫やとりハ様
○忠押れ未見

高光 ミミ 之刀ハ様ニカハ様ニ光り

忠ハ孫や小丸一光細ハ山様や
とりニ字様小つと、打少も、
小細ハ様あり。殿アハ栗田口殿
吉光ととり。依國旧様曰吉光栗
田口三人因様ニ人山様ニ人一人とあり
と、右乃吉光忠押れ未見

△大和子平院之系図秘訣

行信 ホシノ ○龜山院由テノ
後山 ホシノ 乃後

女子 御次下

主業 主 ホシノ 申上能

頃今西元の系々系々あり

定之 ホシノ 康 ホシノ 同

國吉 金丸 國吉

力玉

金王丸

一至

力

如子

怒之久

一千平院

主中上

ふえん乃以てを力のいこ

反るく指ひり丸孫小使りて地をあ

い前う座双小長と殿入う候おれ

るく系と殿入う階乱双もる双る

まめふ白く壁に供るる切せん中地

供乃殿何大足空めるる随然極圓の

心ありは他地くくくくくくくくく

へる是是乃候がゆかりの中心の足やう

乃事ち力ハ指のけ座通あて平のけ

模なり但膝りく二と寸候ゆふ忠

先へ大車通あてもるる子も院ハ端と打

するに祖又親孫乃んかやう院乃ま

小おひる忠乃親孫極角あてく内を

かおれめんとかくたふ小より丸孫

乃くく足くくくくは割うくくく

とわくをめくくくやうくくくく

る

肉

徳文の千手院

行信中 徳肉アリ

行信

角ニ小肉アリテ様ナリ 角
徳文千手院ニテ子孫公ニテ院ニテアリ

。行信

角ニ小肉アリテ様ナリ

行信

行信

千手院

徳角ニ小肉アリテ様ナリ

行信ニテ徳文ノ上ニテ是ト云々ノ院ニテ
本力多面目要定の上ニテ角
ウニテモ千手院ニテ様ナリ 角ニ小肉アリ

千手院

徳角ニ小肉アリテ様ナリ

行信

徳角ニ小肉アリテ様ナリ 角
徳文ニテ角ニ小肉アリテ様ナリ

千手院

千手院

徳角ニ小肉アリテ様ナリ 行信ニテ徳文ノ上ニテ是ト云々ノ院ニテ
本力多面目要定の上ニテ角
ウニテモ千手院ニテ様ナリ 角ニ小肉アリ

付信が子世屋ハ恒父方の院と云

。千手院

用

。千手院

角ノ小内ヲサ接

。千手院

北名ノ所後五通

角ノ小内ヲサ接

。千手院

。千手院

。千手院

金五圓高々力正康重慶次

定重系度本新於向一其重系

度重のりれと腹切切と一七通合

小重のりれとあり。重弘力ハ所正通

後所別とや一ありと地之細指

乃新力同又云心所院。こもる所ハ所正

通。こもる角もる所。こもる未。こもる

。千手院

重弘

角ノ小内ヲサ接

重
放

重
放

康弘
康重

是行信より類はわくし重は千の院を珠
し康重と云千の院も重は千の院と大相
行信と重弘と云人より院を康弘と云
なりと云わぬ重弘と云人より院を康弘と云
信と生類より云ふは千の院と云ふは千の院と云
なりと云ふは千の院と云ふは千の院と云ふは千の院と云

。千の院是重

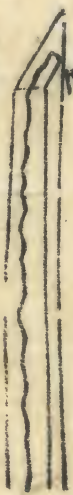
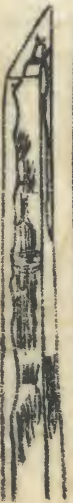
是重
。千の院是重

。千の院

。千の院

。千の院

文之重



力王

和思ニリク。四糸改口ノ二人福流

力王

角ノ小肉カクハシ

力王

角ノ小肉カクハシ

金五五ノ文ノ取カクハシ

取 因吉作。

角ノ小肉カクハシ

金王丸

因吉 和思ニリク

金王丸 因吉。

角ノ小肉カクハシ

角ノ小肉カクハシ

金王丸

因吉



金王丸

因吉作。

角ノ小肉カクハシ

因吉

角ノ小肉カクハシ

義弘

和思ニリク

。是流ノ法

義弘

車 加。

殊角ノ内アリ

重なる類

一康弘。康重

まきく重なる類

一、まき行信乃類ハカクシ重ハ千ノ院々珠
し康重ト云千ノ院ハ重ハク一類ノ大類
行信ト重弘ト云ハカクシ院々重弘ハ赤松
乃ト云ハカクシ重弘ト云ハカクシ院々重弘ハ赤松
信ト生懸アリハカクシト云ハカクシ院々重弘ハ赤松
カクシト云ハカクシ院々重弘ハ赤松

○千ノ院是重

是重

ト上。千ノ院是重

一、まき重 重弘ハカクシ

角ノ内ハカクシ

○千ノ院

重なる類

角ノ内ハカクシ

○千ノ院

同林

文之重



力王

承恩ニシテ。公家院頭ヲシテ人福法

力王

角ノ小内カクハシ

力王

角ノ小内カクハシ

祝

因吉作。

角ノ小内カクハシ

金王丸

因吉承恩ニシテ

金王丸因吉。

角ノ小内カクハシ

角ノ小内カクハシ

金王丸

因吉

金王丸

因吉作。

角ノ小内カクハシ

因吉

角ノ小内カクハシ

義弘

承恩ニシテ

。是法ニシテ

義弘

大智度論二郡子手院義放

一 倭吉 系三十一

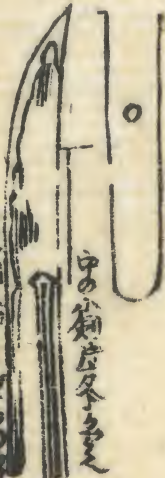
たぐりて 大和格とらふ倭信をいふなり

也吉

肉之と 肉

一代ち
他吉と

倭國 系三十一



中の銅皮をいふ

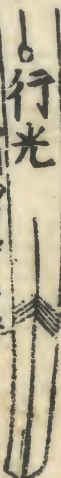
一 倭信 系三十一

大和格とらふ倭信をいふなり

長谷部倭信

角ノ小肉なり 伊日

一行光 大和系三十一 一代振名



角ノ小肉なり 伊日

一定利 大和系三十一 一代振名

一定利。

角ノ小肉なり 伊日

國永 大和系墨方一 延同 元晉比

國永 角ノ小肉ヲ鉗模 切 一代殿

未行 大和系墨方一 一代殿

未行 角

延吉 大和系墨方一 〇花墨は文保法

延吉 角 一代殿

利光 系墨方一

利光

角ノ小肉ヲ鉗模

長光 下々 花墨は流石 延吉文保法

長光 花 光 角

友則 〇友則

和州國分寺 系保法 模模

和州國分寺 一代殿

和州國分寺 模模

一 吉行 一代源治

九とみしる

吉行。

公家の家と君とありて

一時未 一代源治

大和國佳人時未作

重則 一代源治

重則。

長國

長國

長吉

大和國吉行。了龍門家長吉作

△字多物之系系秘後

系系三武中と号して武中の四
入銘形ハ大和の国ありてこふ
系系と引名ハ系系の国ありて
と云ふは武中ハ後と云ふ

國光

國房

國貞

國久

國次

國欠

國真

國房

國弘

國長

國友

友次

國吉

友則

女子

友久

國宗

友久

國宗

友童

國森

平國

一國光

中書
國光

角之沙日

宇多國亮
角三ノ内ナリガ事也

一 國光

宇多國房
角三ノ内ナリ伊豆也

一 國友

宇多國友
角三ノ内ナリ伊豆也

一 國長

宇多國長
角三ノ内ナリ伊豆也

一 國友

宇多國友
角三ノ内ナリ伊豆也

一 國宗

宇多國宗
角三ノ内ナリ伊豆也

宇多國宗
角三ノ内ナリ伊豆也

一國久

一亦友 系亦亦友

。字多國久

字多 宗友

國安

字多 系亦亦友

。國安

角と角

角

一未國

與國房の字也

係兄三

係

一未國

古今諸家合類大全上終

此年所定自來水

月支平王乃此

見月

一、此年所定

此年所定

此年所定

卷一 仿朱子集注

居業錄卷一 仿朱子集注

卷一

三
卷一



居業錄

